

平群朝臣の嗤ふ歌一首

三八四二番

童ども 草はな刈りそ 八穂蓼を 穂積の朝臣が
腋草を刈れ

穂積朝臣の和ふる歌一首

三八四三番

いづくにそ ま朱掘る岡 薦置 平群の朝臣が
鼻の上を掘れ

黒き色を嗤笑ふ歌一首

三八四四番

ぬばたまの 斐太の大黒 見るごとに 巨勢の小
黒し 思ほゆるかも

答ふる歌一首

三八四五番

駒造る 土師の志婢麻呂 白くあれば うべ欲し
からむ その黒き色を